



第1回 大槌町総合計画審議会かわら版

1 第1回大槌町総合計画審議会の開催

令和5年5月22日(月)、第1回大槌町総合計画審議会が開催されました。第9次大槌町総合計画(後期基本計画)は令和6年度~10年度までの町の5か年計画について策定するものであり、今後の町の取り組みを決める重要な計画です。同計画の策定のため、町は条例に基づき審議会を設置しました。審議会では各委員へ委嘱状が交付され、後藤力三氏が会長に選出された。以下では計画策定に先立つ平野町長のあいさつならびに、全委員※1の言葉を掲載します。

※1 植田敏郎委員は諸事情により欠席。また後藤会長は進行役のため発言なし。



会場では活発な意見が交換された。

2 町長あいさつ概要

町長あいさつでは以下の3つの視点(①~③)が示された。

① 少子高齢化対策

地域の様々な資源を活かし、高齢者には切れ目のない支援を包括的に実施する体制を、また子育てにかかわる全ての人が大槌で安心して子育てができるような環境の構築を目指す。

② 安心して働ける場の確保

持続可能で魅力ある農林水産業の振興や地元企業の成長支援、企業誘致、起業の促進等に取り組み、若年層の転出者を減少させ、出生数の増加を図る。

③ DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

労働力不足を背景とし、自治体の業務の標準化・共通化・簡略化が求められている。国の補助金の活用も視野に入れ、デジタル化による行政の効率化ならびに町民の利便性向上を図る。

3 委員あいさつ概要(発言順)

・大萱生都委員

→子どもを中心としたまちづくりが始まっていると思う。改めて方法を模索できればよい。

・平野榮紀委員

→他県では水産加工場に新卒の若者が就職する事例がある。本町でも若い人が来ればよい。

・芳賀政和委員

→魚が好きで調理師として本町で活躍したい若者もいる。まだまだ(若者も、この大槌町のさらなる可能性も)捨てたものじゃない。

・佐々木重吾委員

→高齢化で農家が危機的な状況だが、若手の農業参入者もいる。彼らを逃してはならない。

・徳田信也委員

→高齢化率が50%を超える危機的状況の自治体を見学した。本町でも至急の対策が必要。

・千代川茂委員

→新型コロナウイルス感染症の流行が終わりつつあるのでインバウンドの誘致を。また外国人の技能実習生等も視野に入れた人材の確保を。

・岩間利夫委員

→ワークショップや専門部会でまちの課題の実態把握と(対策の)検討を行ってほしい。

・古舘和子委員

→今年で婦人会は70周年。100周年を目指しつつ、元気のある我々がまちの取り組み(例えば子どもの見守り等)に協力していきたい。(以上)